

# 3年生の授業創造プラン（平成28年度）

	3年生の実態と課題	授業創造プラン	実践記録	成果と課題
国語	【話すこと・聞くこと】 ●話し合いができる児童が少ない。 ●相手意識が十分でなく、筋道立てて話そうとする意識が低い。	【話すこと・聞くこと】 ●意見を交流する活動の時間を確保する。 ●話すことのメモを作成し、筋道立てて話すことの意識をもたせていく。	【話すこと・聞くこと】 ・小グループやペアでの交流場面を多く行った。 ・話を聞くときに「聞くポイント」を提示し、話を聞く時にメモをとる方法を指導した。	【話すこと・聞くこと】 ○目的意識をもち、相手に分かりやすく説明しようとする姿勢が身に付いてきた。 ●相手の話を最後まで聞く姿勢が身に付いていない児童がいるので、継続的に指導していく必要がある。
	【書くこと】 ○目的意識をもち、進んで書こうとすることができる児童が多い。 ●段落の役割を理解しながら、主述を整えて文章を書くことができる児童が少ない。	【書くこと】 ・段落を意識する「主語と述語に気を付けて書く」などのテーマを設定し、短い文章を書く活動を取り入れ、自分の思いを伝えるために効果的な文章を書く力を身に付けていく。 ・書いた文章を自分自身や友達同士で推敲する活動を取り入れ、文章構成力や表現力の向上を図る。	【書くこと】 ・文章を書く時は、「段落」「主語・述語」「はじめ・中・終わり」を意識して、作文やミニ作文、新聞を書く活動を行った。 ・校正の仕方を示し、友達同士で文章を読み直したり、友達の文章をよりよくなる時間を設けたりし、文章を推敲する活動を行った。	【書くこと】 ○文章を書く時のきまりを覚え、正確に早く自分の考えを書き表すことができるようになってきた。 ●疑心法や比喩表現などの多様な文章表現方法がまだ身に付いていない児童がいるので、継続的に指導していく必要がある。
	【読むこと】 ○登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むことができる児童が多い。 ●段落相互の関係を考えて読みを深めることができる児童が少ない。	【読むこと】 ・根拠となる部分には、サイドラインを引く活動を取り入れ、根拠を明確にもち意見を言うようにする。 ・説明的な文章では、段落構成図を作成する時間を設け、段落相互の関係や役割について読み取っていく。	【読むこと】 ・説明文・物語文で発表するときは、根拠となる文章を説明させた。 ・説明文では、段落構成図を作成し、段落関係や役割を指導した。	【読むこと】 ○根拠を基に自分の考えを説明できる児童が増えた。 ●自分の根拠を大切にすることが、相手の根拠は認められない児童が少数いるため、継続的に指導していく必要がある。
	【言語事項】 ●語彙力の少ない児童がいる。 ●漢字を書きとる力が低い。	【言語事項】 ・「東京ベーシック・ドリル」を活用し、辞書活用力や語彙力の向上を図る。 ・読書活動や辞書引きの習慣を身に付けさせる。	【言語事項】 ・授業の中で辞書を活用する場面を適宜取り入れて、語彙の拡充を図った。 ・ベーシックドリルを活用してローマ字の読み方の学習した。	○辞書を進んで活用できる児童が増え、語彙が増えてきている。 ●漢字テストは丁寧に文字を書くが、ノートやワークシートの文字は乱雑な文字を書く児童がいる。学校生活全般で文字を丁寧に書く習慣が身に付くよう、継続的に指導していく必要がある。
社会	【思考・判断・表現】 ○意欲的に課題を設定し、解決に向けて取り組むことができる児童が多い。 ●学習したことを生活にいかそうとする児童が少ない。	【思考・判断・表現】 ・学習課題について生活体験に基づいて調査し、社会とのつながりを考えさせる。	【思考・判断・表現】 ・学習したことを実際に確かめる学習活動(市内めぐり・スーパー見学等)を取り入れた。	【思考・判断・表現】 ○校外学習前に、個人やグループで課題を設定させたり、校外学習後に課題解決のため話し合わせる活動を取り入れたことで、実生活とのつながりを強く意識させることができた。
	【資料活用】 ●地図などの資料から情報を読み取ることができる児童が少ない。	【資料活用】 ・「東京ベーシック・ドリル」を活用し、地図から必要な情報を選択する力を身に付けさせる。 ・資料から必要な情報を選択できるような学習活動に取り組みさせる。	【資料活用】 ・東京ベーシックドリルだけではなく、「わたしたちの日野」に掲載されている日野の地図も有効活用した。	【資料活用】 ○自分たちが住んでいる地域の地図を活用することで、地図を読み取る力を向上させることができた。 ●簡単な地図記号は読み取れるようになったが、地図上に多くの情報があると読み取りが難しい。また、方向についても体感的に身に付いていない。
	【知識・理解】 ○地図記号や方位などは概ね定着している。 ●経験がないものに対する知識・理解の定着度が低い。	【知識・理解】 ・ゲストティーチャーを招いたり、見学に行ったりする授業を取り入れ理解を深めていく。	【知識・理解】 ・地域で農業を営む方や日野郷土資料館解説員の方々にゲストティーチャーに招聘し、出前授業を実施した。	【知識・理解】 ○出前授業で本物に触れることで、知識・理解を深めることができた。
算数	【数学的な考え方】 ○「ことバンク」を活用し、帰納的・演繹的・類推的に事象をたえ、思考しようとする児童がいる。 ●他者の考えたことを理解し、適用していく力に課題がある。	【数学的な考え方】 ・数学的な価値のある発言や思考をほめ、思考しようとする態度をさらに育成していく。 ・児童の考えを自分の言葉でまとめたり、説明し合ったりする時間を取り入れることで、考えを共有できる力を身に付けさせていく。	【数学的な考え方】 ・ことバンクを使い、数学的な思考ができる児童を称賛した。 ・図や式や言葉など様々な方法で、考えを表現させるようにした。また、考えを共有するために自分の考えと比べたり、友達の考えを分類したりして理解を深めた。	【数学的な考え方】 ○帰納的な考え、類推的な考え、演繹的な考えをし、問題解決しようとする児童が増加した。 ●思考力と表現力を身に付けさせながら深めることが難しかった。
	【技能】 ○かけ算・わり算、3位数のたし算・引き算を計算する技能は、おおむね定着している。 ●何分前や何分後、何時間前や何時間後といった時刻を求めることが難しい児童がいる。	【技能】 ・自分から進んで計算の決まりを見付けたり、答えを確かめてみたりしたいと思えるような課題を単元で取り扱うことで、計算の量を確保し、その定着をより確実なものにしていく。 ・単元終了後も継続して時間・時刻および計算等の技能の定着を図るために、「東京ベーシック・ドリル」を活用していく。	【技能】 ・単元の復習の時間に計算したくなるような問題を扱い、技能の習熟を図った。 ・ベーシックドリルで基礎基本の定着を図った。 ・他教科でも算数に関する問題を提示し、技能の習熟を図った。	【技能】 ○計算技能は80%の児童が定着している。 ○コンパスを活用できる児童が増えた。授業以外でも積極的にコンパスを活用する児童が多かった。 ●時刻・時間に関する問題については、今後も生活の中で意識させていく必要がある。
	【知識・理解】 ○前学年までに学習したことや1学期に学習した内容については、おおむね定着している。 ●その一方で、時間が経過すると、学習内容の定着度が低下してしまう児童が数名程度いる。	【知識・理解】 ・学習内容をより確かなものにするために、単元終了後にはプリント・ドリルなどを活用し、さらなる知識・理解の定着を図っていく。 ・家庭学習などを活用し、「東京ベーシック・ドリル」などを用いて繰り返し練習をすることで、既習事項の定着を図っていく。	【知識・理解】 ・単元の終末には、ドリル等を活用し知識・理解の定着を図った。 ・適宜、既習単元の復習を行う時間を取り、学習の定着が継続していくようにした。	【知識・理解】 ○3年生で学習したことはおおむね理解することができている。 ●2年生までに学習し、3年生で扱わなかった内容(立体等)の復習が今後必要である。
理科	【科学的な思考・表現】 ○身近な自然の観察や実験を通して、疑問をもったり、考察したりする児童が多い。 ●学習課題に対する「予想→実験→結果→まとめ」の思考の流れが身に付いていない。	【科学的な思考・表現】 ・「予想→実験→結果→まとめ」の学習過程を繰り返すことで定着させる。	【科学的な思考・表現】 ・「予想→実験→結果→まとめ」の学習過程が分かるよう、板書を工夫した。また、児童にノートを書かせる際も、板書を参考にさせた。	【科学的な思考・表現】 ○毎回の授業において、板書やノートに「予想→実験→結果→まとめ」の学習過程を意識させたことで、思考の流れや学習地点を理解できる児童が増えた。 ●ただ単に板書を写す児童が多いので、自分自身が気付いたことや友達の考えが書けるよう、継続的に指導していく必要がある。
	【観察・実験の技能】 ○観察の視点は概ね定着している。 ●細部まで正確に観察し記録する児童が少ない。	【観察・実験の技能】 ・実物に近い記録ができるよう、虫めがねや温度計などの観察器具を生かし観察ができるようにさせる。	【観察・実験の技能】 ・観察器具の特性を事前に説明し、児童一人一人が観察器具に直接触れられるようにした。	【観察・実験の技能】 ○虫めがねや温度計などの特性や正しい扱い方を徹底したことで、正確に観察・記録ができる児童が増えた。 ●学習から時間が経つと、観察器具の使い方を忘れてしまう児童がいるので、継続的に指導していく必要がある。
	【知識・理解】 ○生物は、色・形・大きさなどが違うことを理解している。	【知識・理解】 ・学習内容を定着させるよう、単元終了後には「東京ベーシック・ドリル」などを活用し、知識・理解の定着をさせる。 ・実物を観察したり、拡大写真や特徴がわかる動画を見たりするなど、ICTを活用して、さらに理解の定着をさせる。	【知識・理解】 ・単元終了時のまとめや、3学期の学年のまとめの総復習の際に「東京ベーシック・ドリル」を活用した。 ・「本物」に直接触れさせるため、できるだけ実物を準備した。また、ICT(電子黒板・実物投影機)を活用し、理解を深められるようにした。	【知識・理解】 ○「東京ベーシック・ドリル」で単元のまとめなどを行うことで、学習の定着度合いを確かめることができた。 ○実物を通して学習することで、生物の特性(色・形・大きさ)について捉えやすくなり、理解をさらに深めることができた。